

保障措置実施に係る事業者連絡会

② 保障措置検査等の実施状況

— 計量報告に必要な測定ベースコードの説明 —

原子力規制庁保障措置室
2025年4月22日

測定ベースコードとは何か。

核燃料物質在庫変動・受払間差異・リバッチング報告書 (Inventory Change Report)、核燃料物質実在庫量明細報告書 (Physical Inventory Listing) に記載するバッチデータの測定状況を示すコードをいいます。

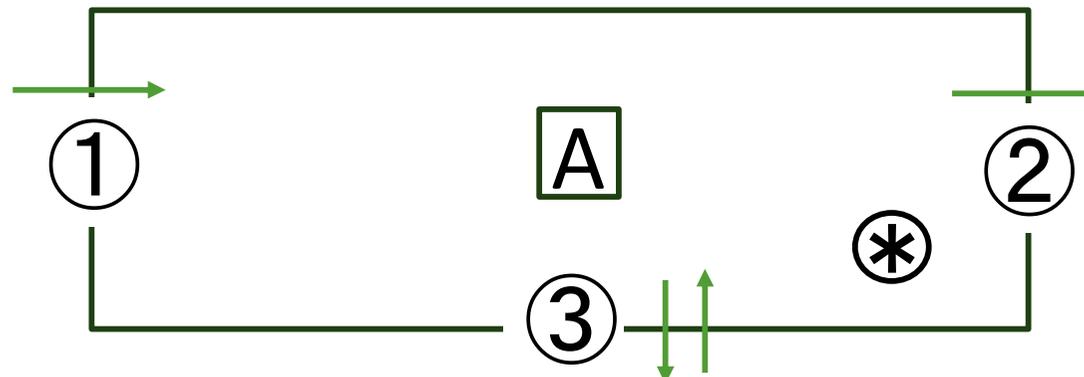
キーワード	コード	説明
自測定	M	バッチデータは、当該MBAで行われた測定に基づいている。
他測定	N	バッチデータは、他のMBAで行われた測定に基づいている。
タグ	T	バッチデータは、当該MBAで以前行われた測定に基づくものである。すでに当該MBAのICRまたはPILで報告されており、その後、再測定は行われていない。
ラベル	L	バッチデータは、他のMBAで以前行われた測定に基づくものである。すでに当該MBAのICRまたはPILで再測定なしに報告されている。

バッチデータを決定するための重量測定、長さ測定や計算を行った場合、測定ベースコードは「M」となる。

測定ベースコードの説明(代表例)

KMP	在庫状況/変動コード	測定ベースコード	測定ベースコードの付与理由
1	受入れ	N	他のMBAでバッチデータを決定したため。
	事故増加	M	当該MBAでバッチデータを決定したため。
	受払間差異	M	当該MBAでバッチデータを決定したため。
2	払出し	M/T/L	当該MBA/過去に当該MBA/過去に他のMBAでバッチデータを決定したため。
	事故損失	M/T/L	当該MBA/過去に当該MBA/過去に他のMBAでバッチデータを決定したため。
3	保管廃棄	M	当該MBAでバッチデータを決定したため。
	保管廃棄再生	T	過去に当該MBAでバッチデータを決定したため。
	測定済廃棄	M	当該MBAでバッチデータを決定したため。
*	リバッチングマイナス	M/T/L	当該MBA/過去に当該MBA/過去に他のMBAでバッチデータを決定したため。
	リバッチングプラス	M	当該MBAでバッチデータを決定したため。
	核的損耗	M	当該MBAでバッチデータを決定したため。
	核的生成	M	当該MBAでバッチデータを決定したため。
	区分変更	M	当該MBAでバッチデータを決定したため。
A	在庫保管	M/T/L	当該MBA/過去に当該MBA/過去に他のMBAでバッチデータを決定したため。

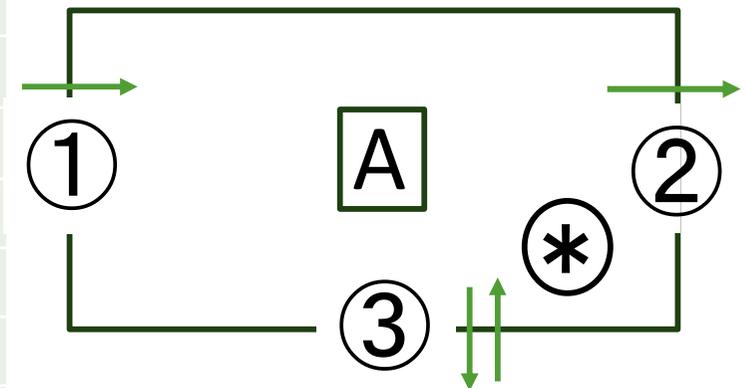
注記：本内容は測定ベースコードの基本パターンを示したものである。計量報告時には、実際の作業に適した測定ベースコードを記載すること。



ケーススタディ（その1）：受入→棚卸し確認→リバッチング

- ①他のMBAでバッチデータを決めた核物質を1バッチ1アイテムとして受入れた。
- ②棚卸し確認を行った。
- ③棚卸し後に1バッチ1アイテムから1バッチ1アイテム×3に分割した。分割後の核物質量は、秤量した結果の重量比で配分し当該MBAで決定した。

実作業	在庫変動コード	KMP	バッチ	アイテム数	核物質量(g)	測定ベースコード
①他のMBAからの受入	RD	1	ABC111	1	100	N
②棚卸し確認	-	A	ABC111	1	100	L
③アイテムの分割	RM	*	ABC111	1	100	L
			ABC111	1	40	M
	RP	*	ABC112	1	30	M
			ABC113	1	30	M



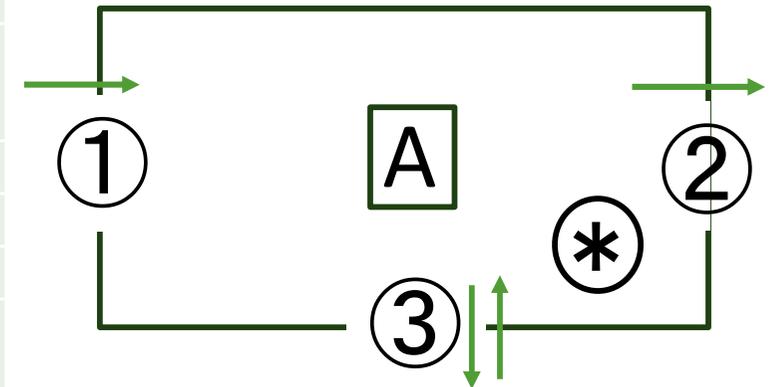
解説：

- ①受入れ量は、他のMBAでバッチデータを決定したため、測定ベースコードは「N」とした。
- ②在庫確認量は、過去に他のMBAでバッチデータを決定したため、測定ベースコードは「L」とした。
- ③リバッチングマイナス量は、過去に他のMBAでバッチデータを決定したため、測定ベースコードは「L」とした。
リバッチングプラス量は、当該MBAでバッチデータを決定したため、測定ベースコードは「M」とした。

ケーススタディ（その2）：事故増加→リバッチング→払い出し

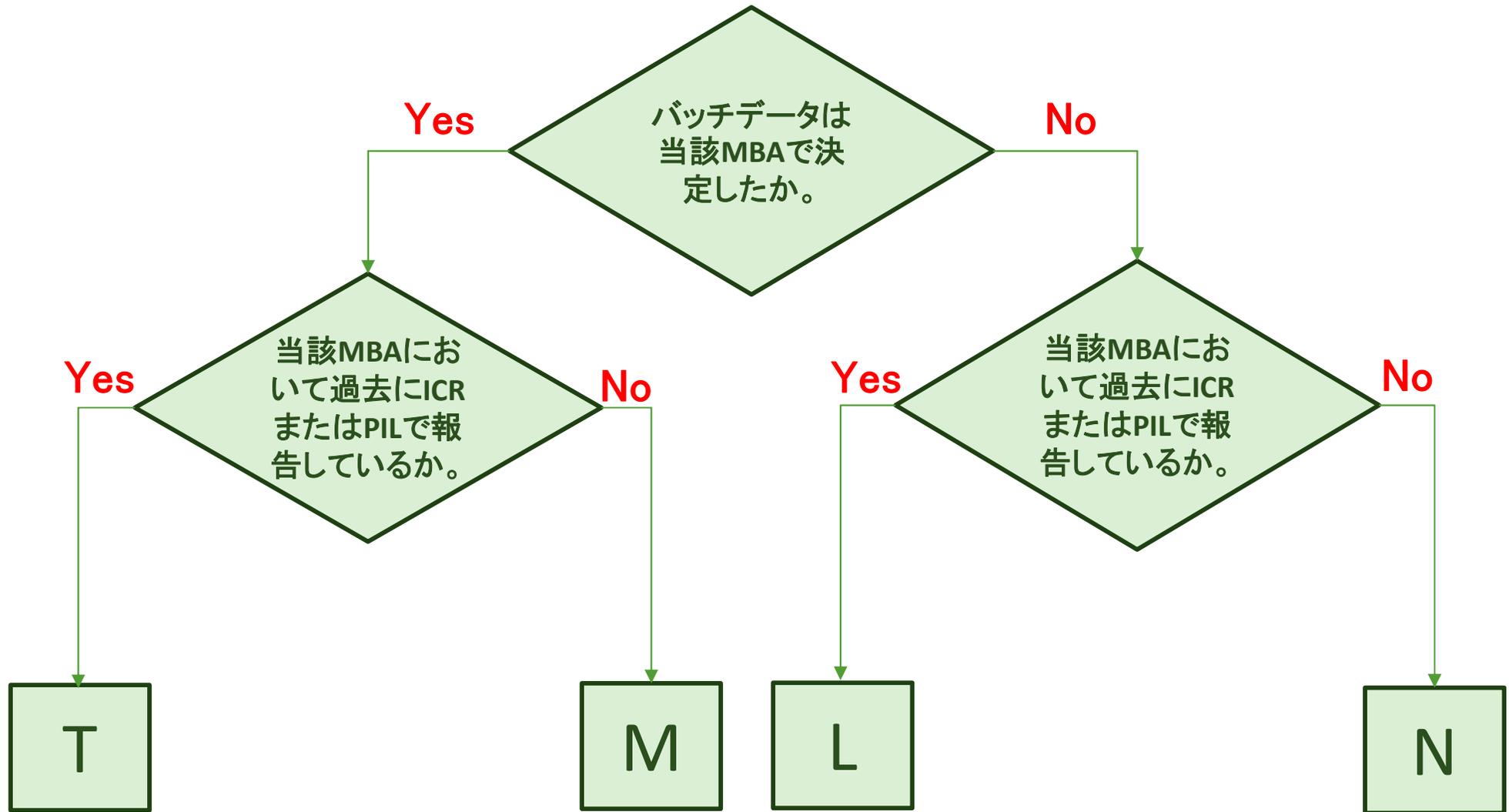
- ①管理されていない核物質を5アイテム発見した。分析及び秤量を行い、核物質量を決定した。分析した結果、内容物は同一仕様であることが分かったため、1バッチ5アイテムとして管理することにした。
- ②他MBAに払い出すために既に存在している同一仕様の他アイテム(1バッチ1アイテム)と統合し、1バッチ6アイテムとした。
- ③他MBAへ払い出した。

実作業	在庫変動コード	KMP	バッチ	アイテム数	核物質量(g)	測定ベースコード
①未管理核物質の発見	GA	1	EFG001	5	100	M
②アイテムの統合	RM	*	ABC001	1	20	T
			EFG001	5	100	T
	RP	*	ABC002	6	120	M
③別のMBAへ払い出し	SD	2	ABC002	6	120	T



解説：

- ①事故増加の核物質量は、当該MBAで決定したバッチデータとするため、測定ベースコードは「M」とした。
- ②リバッチングマイナスの核物質量は、過去に当該MBAで決定したバッチデータとするため、測定ベースコードは「T」とした。
リバッチングプラスの核物質量は、当該MBAで決定したバッチデータとするため、測定ベースコードは「M」とした。
- ③払い出しの核物質量は、過去に当該MBAで決定したバッチデータとするため、測定ベースコードは「T」とした。



測定ベースコードを決定するためのフローチャート(参考)